

2016年3月期 第2四半期 決算説明会



2015年11月4日

 **丸文株式会社**
(証券コード：7537 東証1部)

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

第2四半期連結決算の概要、重点施策の進捗状況、通期の業績見通しについてご説明します。

目 次

●本日のポイント	・・・ P. 3
●第2四半期連結決算の概要	・・・ P. 4
●中期経営計画	
事業戦略と重点施策の概要	・・・ P.13
上期の進捗状況	・・・ P.20
●連結業績予想の概要	・・・ P.25
●株主還元	・・・ P.31
●参考情報	・・・ P.32

2016年3月期より、在外連結子会社等の収益及び費用の円貨換算方法を、従来の決算日レートから期中平均レートに変更しました。この変更は遡及適用されるため、本資料の2015年3月期の実績は遡及適用後の数値を記載しています。

本日のポイント

第2四半期業績 売上高は、過去最高 営業利益は、5割増



- 通信モジュール向け半導体が好調
- 中期施策：ベースビジネスの拡大、自動車市場の深耕、新規商材の開発が順調

www.marubun.co.jp

通期業績見通し 売上高は、上振れ 経常利益は、期初計画を据え置くも増益



- 中国の景気減速の影響を盛り込む

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

3

全体のポイントをご説明します。

第2四半期の業績は、上期の売上としては過去最高を記録、営業利益は前年同期に比べ5割増となりました。

これは、通信モジュール向け半導体が好調だったことに加え、中期施策として取り組んでいる「ベースビジネスの拡大」や「自動車市場の深耕」、「新規商材の開発」が順調に進んでいることによるものです。

2016年3月期通期の見通しについては、売上高で過去最高の2,840億円を見込んでおります。一方、利益については中国の景気減速の影響を織り込み、期初計画を据え置きました。

2016年3月期 第2四半期 連結決算の概要

www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

第2四半期の決算概要についてご説明します。

2016年3月期 上期 連結決算サマリ (対前年同期比)

売上高は、245億円増 (+19.9%) の1,478億円

- **デバイス事業** 通信モジュール・自動車・プロジェクト向けの増加
- **システム事業** 医用機器、レーザ機器の増加

営業利益は、4.9億円増 (+53.3%) の14億円

- **販売費及び一般管理費** 子会社の増加等による増加

経常利益は、9.2億円増 (+162.6%) の14億円

- **営業外費用** 為替差損の減少

四半期純利益は、5.5億円増 (+206.5%) の8.2億円

- **特別損益** 投資不動産売却益、保有不動産に関わる減損損失等

2016年3月期 上期 業績サマリ

(百万円)	15/3月期 上期		16/3月期 上期		対前年同期比		【ご参考】 16/3月期 期初予想	
	実績	構成比	実績	構成比	金額	%	上期	構成比
売上高	123,240	100.0%	147,803	100.0%	24,563	19.9%	137,000	100.0%
デバイス事業	107,538	87.3%	129,599	87.7%	22,061	20.5%	118,700	86.6%
システム事業	15,701	12.7%	18,203	12.3%	2,502	15.9%	18,300	13.4%
売上総利益	8,166	6.6%	8,948	6.1%	782	9.6%	8,700	6.4%
販売管理費	7,242	5.9%	7,533	5.1%	291	4.0%	7,650	5.6%
人件費	4,485	3.6%	4,615	3.1%	130	2.9%	-	-
その他	2,757	2.2%	2,917	2.0%	160	5.8%	-	-
営業利益	923	0.7%	1,415	1.0%	492	53.3%	1,050	0.8%
営業外収益	346	0.3%	374	0.3%	28	8.1%	-	-
営業外費用	701	0.6%	297	0.2%	△ 404	-57.6%	-	-
経常利益	568	0.5%	1,492	1.0%	924	162.6%	900	0.7%
特別利益	-	-	693	0.5%	693	-	-	-
特別損失	4	0.0%	755	0.5%	751	16801%	-	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	269	0.2%	827	0.6%	558	206.5%	400	0.3%
期末従業員数（名）	1,260	-	1,282	-	22	-	-	-

www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

6

第2四半期決算についてご説明いたします。

連結売上高は、前年同期に比べ19.9%増の1,478億円になりました。

売上総利益は、売上増に伴い、9.6%増の89億円となりました。

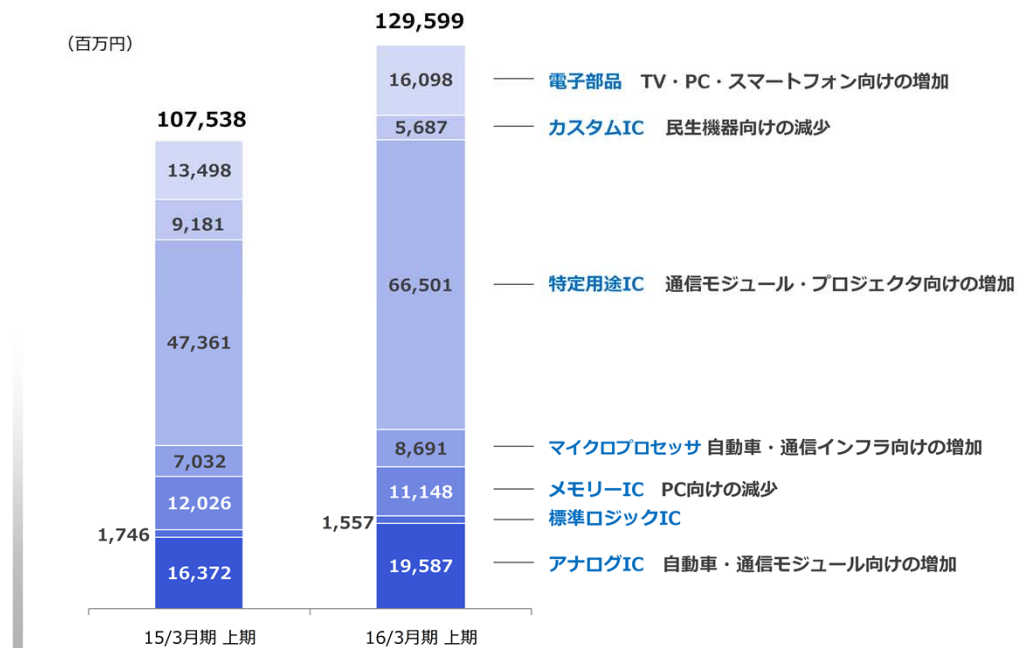
販管費については、持分法適用会社であった池田医療電機を子会社化したことにより、人件費・経費が増加しました。

その結果、営業利益は53.3%増の14億円になりました。

経常利益は、為替差損が4億円減少した結果、162.6%増の14億円になりました。

また、バランスシートのスリム化を目的に投資用不動産や社宅・保養所などの資産売却を進めた結果、特別利益6億9千万円、特別損失7億5千万円を計上し、四半期純利益は8億円となりました。

2016年3月期 上期 デバイス事業品目別売上高



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

7

売上の増減要因についてご説明します。

まず、デバイス事業の売上ですが、前年同期比20.5%増の1,295億円となりました。

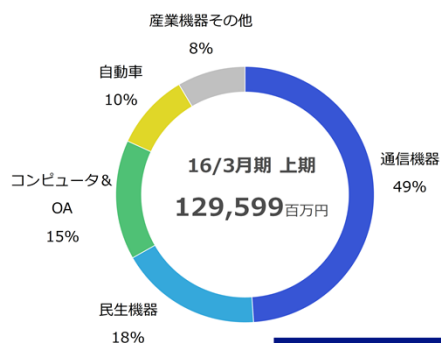
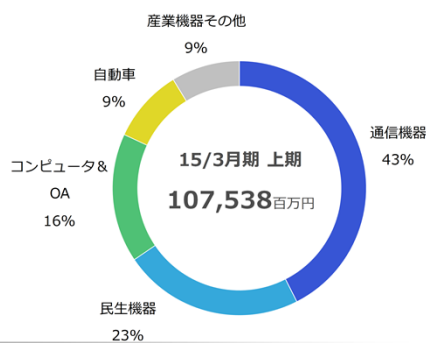
一番伸びが大きかったのは特定用途ICでした。通信モジュール向けやプロジェクタ向けのICが好調でした。

アナログICは自動車・通信モジュール向けが増加しました。

一方、カスタムICは民生機器向けが市場の減速により減少し、メモリーICもノートPC向けDRAMが減少しました。

2016年3月期 上期 デバイス事業用途別市場動向

用 途		市 場 動 向
通信機器	➡	通信モジュールや通信基地局向けが増加
民生機器	➡	ゲーム機・デジタルカメラ向けが減少
コンピュータ&OA	➡	プロジェクト向けが増加
自動車	➡	ナビゲーション・車内通信・エンジンコントロール向けが増加
産業機器その他	➡	FA機器向けが増加



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

8

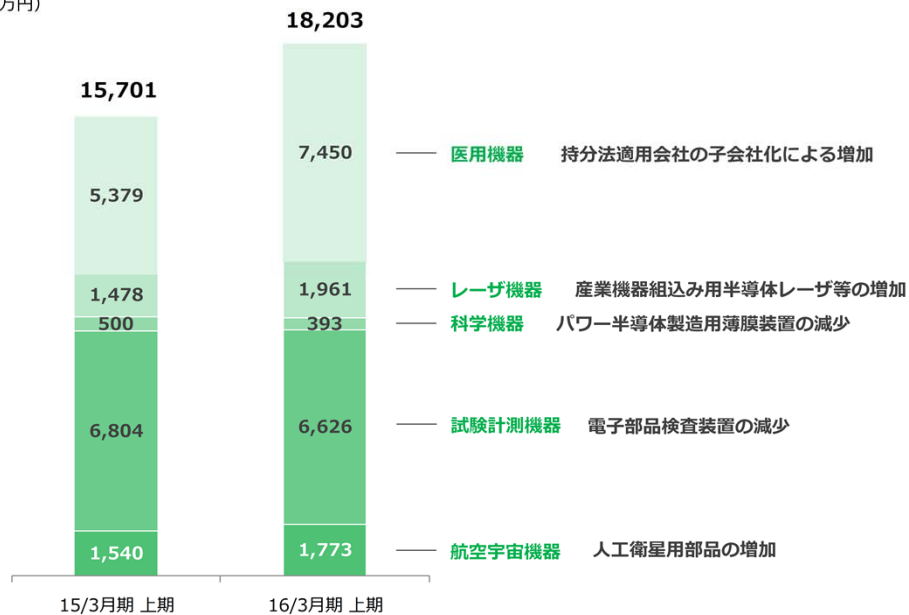
www.marubun.co.jp

用途別では、民生機器を除き、各分野が伸びました。

構成比で見ますと、民生機器が5%低下し、その分通信機器の構成比が伸長しました。

2016年3月期 上期 システム事業品目別売上高

(百万円)



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

9

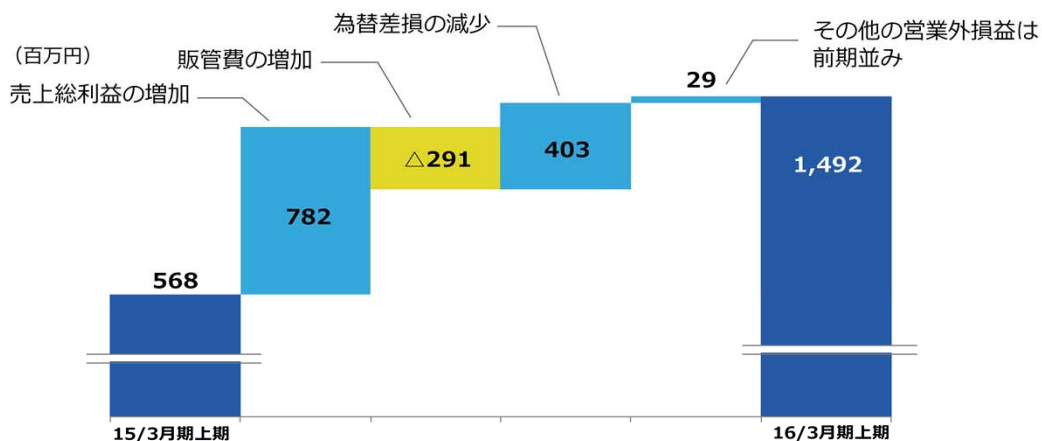
システム事業の売上は、前年同期比15.9%増の182億円となりました。

全体で25億円伸びましたが、主な要因は、医用機器で池田医療電機を子会社化したことによる増加です。

また、レーザ機器も、レーザマーカ向け半導体レーザやネットワーク機器が増加しました。

航空宇宙機器でも、人工衛星用部品が増加しました。

2016年3月期 上期 経常利益の増減要因



売上総利益	売上増加による増加 15/3月期上期：81億円(6.6%) ⇒ 16/3月期上期：89億円(6.1%)
販管費	人員増や持分法適用会社の子会社化による人件費の増加、 売上増加に伴う販売経費の増加
営業外損益	為替差損の減少 15/3月期上期：453百万円 ⇒ 16/3月期上期：50百万円

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

10

経常利益の増減要因についてご説明します。

売上総利益は、売上の増加に伴い前年同期に比べ7億円増加し89億円となりました。

販管費は、持分法適用会社の子会社化と売上増に伴う販売経費の増加により2億円増加しました。

為替差損は前年同期の4億5千万円から5千万円に減少しました。

以上の結果、経常利益は14億9千万円となりました。

2016年3月期 上期末 貸借対照表の概要

(百万円)	15/3月期末 実績	16/3月期 上期末 実績	対前期末比 増減額
流動資産	117,084	113,483	△ 3,601
現金及び預金	21,725	14,459	△ 7,266
受取手形及び売掛金	63,393	63,900	507
商品および製品	28,818	31,266	2,448
その他	3,147	3,857	710
固定資産	11,228	10,080	△ 1,148
有形固定資産	4,232	3,313	△ 919
無形固定資産	448	395	△ 53
投資その他資産	6,548	6,371	△ 177
資産合計	128,313	123,564	△ 4,749
流動負債	72,594	67,779	△ 4,815
支払手形及び買掛金	52,978	53,368	390
短期借入金等	15,300	9,605	△ 5,695
その他	4,316	4,806	490
固定負債	9,416	9,175	△ 241
長期借入金等	7,507	7,500	△ 7
退職給付に係る負債	1,194	1,184	△ 10
その他	714	490	△ 224
負債合計	82,010	76,955	△ 5,055
株主資本	38,068	38,556	488
その他の包括利益累計額	2,382	2,122	△ 260
非支配株主持分	5,851	5,930	79
純資産合計	46,302	46,608	306
負債純資産合計	128,313	123,564	△ 4,749

半導体在庫の一時的な増加

保有不動産の売却等による減少

返済による減少

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

11

貸借対照表の主要科目についてご説明します。

総資産は、前年度末に比べ47億円の減少となりました。

これは、主に棚卸資産が一時的に増加した一方で、現預金や保有不動産が減少したことによるものです。

棚卸資産は金額的には増加しておりますが、月商の1.3か月分であり、適正水準を維持しております。

負債は、短期借入金の減少により、前年度末に比べ50億円減少しました。

純資産については、3億円増加の466億円になりました。

2016年3月期 上期 キャッシュフロー計算書の概要

(百万円)	15/3月期 上期 実績	16/3月期 上期 実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,123	△ 1,332	
税引前当期純利益	564	1,431	
売上債権の増減額 (△は増加)	4,078	493	
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△ 6,135	△ 2,691	半導体在庫の一時的な増加
仕入債務の増減額 (△は減少)	11,132	△ 542	
その他	△ 1,515	△ 22	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 52	560	投資不動産の売却による増加
フリー・キャッシュ・フロー	8,071	△ 772	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,082	△ 6,744	短期借入金の返済
現金及び現金同等物の増減額	5,529	△ 7,438	
現金及び現金同等物の期末残高	24,505	14,074	

www.marubun.co.jp

キャッシュフローは、当上期の営業キャッシュフローが、13億円の資金の流出となりました。

これは主に、半導体在庫の一時的な増加によるものです。

投資キャッシュフローは、投資不動産の売却により5億円の流入となり、この結果、フリーキャッシュフローはマイナス7億円となりました。

財務キャッシュフローは、短期借入金の返済により、67億円の資金の流出となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は140億円となりました。

中期経営計画 事業戦略と重点施策の概要

www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

中期経営計画の概要と上期の進捗についてご説明します。

中期経営計画の概要

ビジョン

持続的な成長が図れる筋肉質な企業の実現

スローガン

Think & Action (T & A)

構造変化をチャンスと捉え
経営改革を加速 & 攻めの経営でチャレンジ

デバイス事業 4つのT & A

- ① ベースビジネスの拡大
- ② 成長市場への対応強化
- ③ 新規商材の開発推進
- ④ グローバル対応の強化

システム事業 3つのT & A

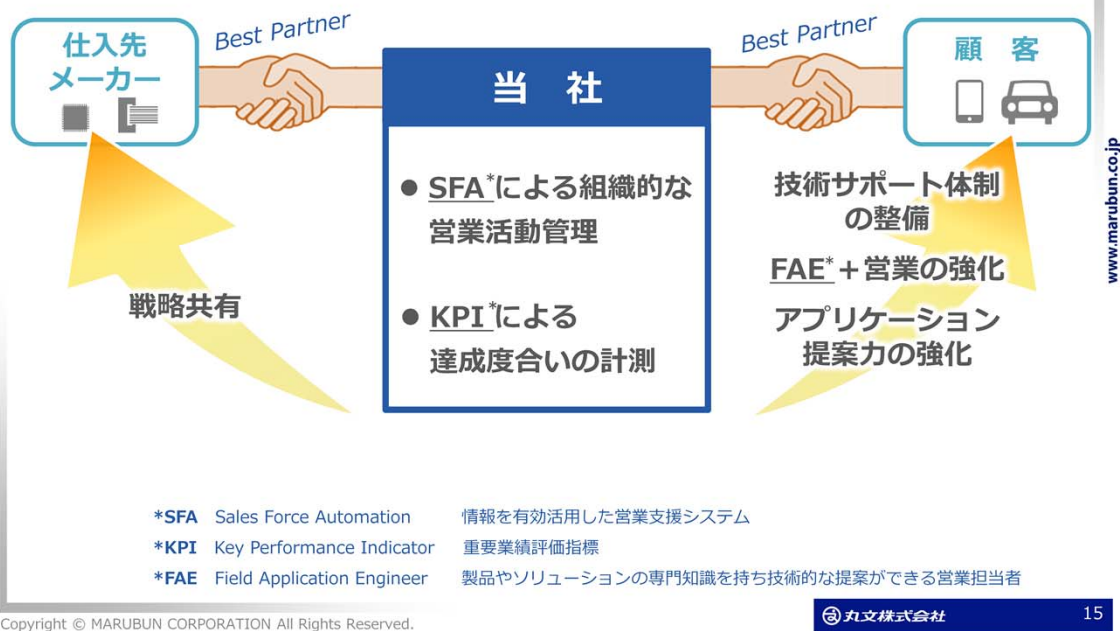
- ① エンジニアリングサービス拡充
- ② システムインテグレーション強化
- ③ 商品ラインナップ増強

2017年3月期 経常利益目標 60億円

ご存知の通り、半導体メーカーは国内外のM&Aが進展しており、国内電子機器メーカーも事業再編の大きな波がやってきています。

当社は、このような構造変化をチャンスと捉え、攻めの経営を推進することで、持続的な成長が図れる筋肉質な企業の実現を目指しております。

Think & Action、略して「T&A」をスローガンに、デバイス事業では4つ、システム事業では3つのT&Aを重点施策として推進し、2017年3月期に連結経常利益60億円の達成を図る計画です。



デバイス事業の戦略をご説明します。

1点目の「ベースビジネスの拡大」では、社内体制の強化に取り組んでいます。

SFAによる案件管理や仕入先メーカーとの戦略の共有化を図ったKPIの導入、FAEの増強など技術サポート体制の整備に取り組み、アプリケーション提案力の強化を進めております。

注 力 市 場	通信分野	IoT[*]に着目 オリジナル評価ボードの開発、各種ソリューション紹介により市場開拓
	自動車分野	ADAS[*]など次世代技術向けの取組みを強化 - 差別化分野であるカーナビのシステムやメーター、パネル、エンジンコントロール分野が寄与 - 北米や東南アジアなど海外市場での取組みを強化
	産業機器分野	FA機器向けに注力 - サーボモータ、シーケンサ向けが好調 - 各種センサなど製品の拡充
	医療機器分野	内視鏡や高度医療機器分野での案件開発 日本が先進する分野での案件開発が進み、今後の加速に期待

*IoT Internet of Things 様々なモノをネットワーク接続して認識・制御する技術

*ADAS Advanced Driving Assistant System 自動運転などの先進運転支援システム

2点目の「成長市場への対応強化」では、「通信」「自動車」「産業機器」「医療機器」の4つの成長市場をターゲットとし、取り組みを進めています。

米国・台湾・中国を中心に50社以上の最新技術、最新製品をソリューション展開

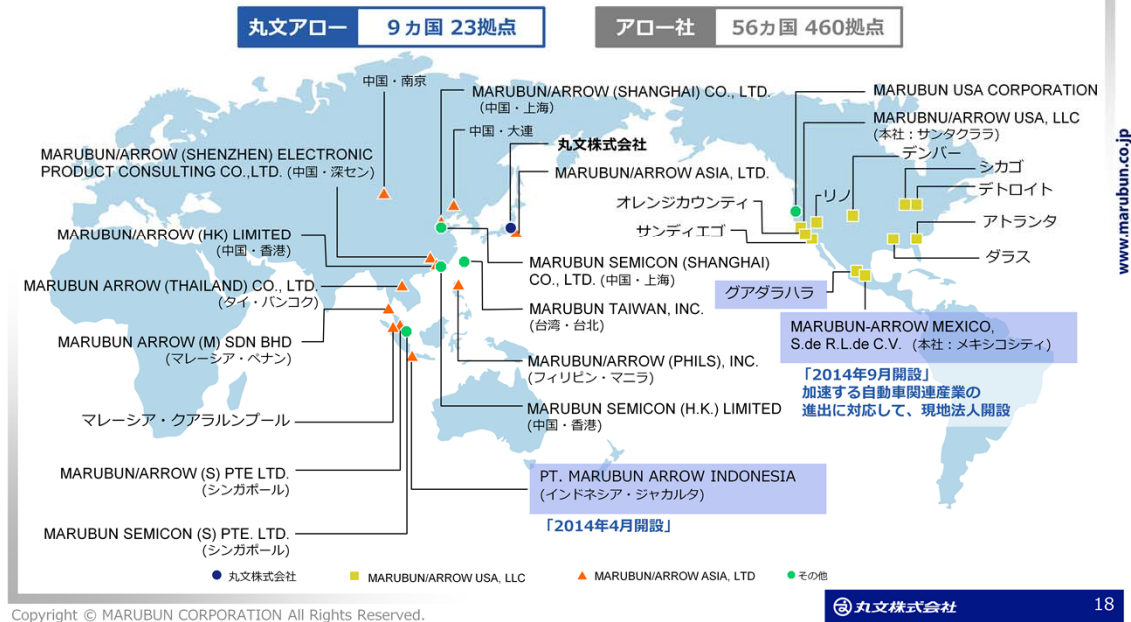
半導体	• OpenSilicon社（カスタムIC） • Baysand社（カスタムIC） • SanDisk社（Flash/SSD）	 Baysand社 ASIC
電子部品	• Eink社（電子ペーパー） • Molex社（コネクタ） • IDT社（タイミングデバイス） • CNI社（カバーガラス）	 Eink社 電子ペーパー
環境	• Winaico社 他（太陽光パネル）	 営農型太陽光発電システム「Solar営農」

3点目の「新規商材の開発推進」に関しては、米国、台湾、中国の最新技術をもったサプライヤを常に50社以上をリストアップして、ビジネスのシーズを追いかけています。

ご覧の様なサプライヤで取組みを推進しています。

中期経営計画の概要
デバイス事業 4つのT & A ④ グローバル対応の強化

アロー社の豊富な商材、拠点、物流情報インフラを活用し、海外サポート力を一層強化



4点目の「グローバル対応の強化」については、当社の一番の強みだと考えています。

海外事業を担う丸文アローでは、メガディストリビュータのアローエレクトロニクス社の持つ豊富な商材、グローバルな販売ネットワークや情報・物流インフラを活用した、日系顧客への海外サポートを強化しています。

この強みを活かし、昨年度はインドネシアとメキシコに拠点を新設しました。

「マーケットイン」と「カスタマーイン」の発想

顧客ごとに違うニーズに対応できるサービスと
ソリューションの提供による差別化の推進

① エンジニアリング
サービス拡充

② システムインテグ
レーション強化

③ 商品ラインナップ
増強

Best Partner
顧客


システム事業のT&Aについてご説明します。

システム事業では、「マーケットインとカスタマーインの発想」で、お客様ごとに対応できるサービスを展開しています。

1点目の「エンジニアリングサービスの拡充」については、装置の保守・メンテナンスで培った経験や技術をもとに、機器の校正サービスやアップグレードサービスなど、より充実したサービスの提供に取り組んでいます。

2点目の「システムインテグレーション強化」では、導入される装置のカスタマイズに対応し、お客様のニーズに対応した高付加価値サービスの開発を進めています。

また3点目の「商品ラインナップの増強」では、各分野でより競争力の高い製品の拡充に取り組み、ビジネス規模の拡大を図っています。

。

中期経営計画 上期の進捗状況

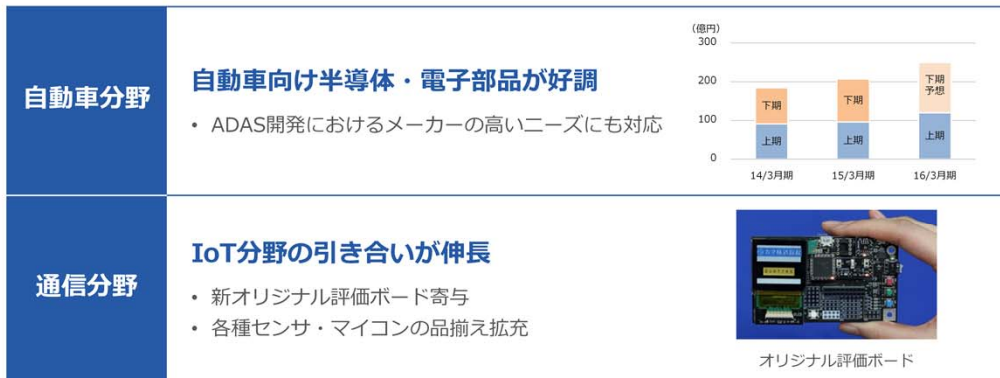
www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

ご説明したデバイス事業のT & A、システム事業のT & Aについて、この上期の進捗状況をご説明します。

中期経営計画 上期の進捗状況－デバイス事業

成長市場への対応強化



www.marubun.co.jp

デバイス事業で掲げた「成長市場への対応強化」ですが、「自動車向け」及び「通信向け」についてご説明します。

「走る電子機器」とも呼ばれる自動車向けの半導体・電子部品の売上は上期も非常に好調に推移しました。

また、自動車業界が現在研究・開発を進めている自動運転システム（ADAS）においては、当社が得意とするヘッドアップディスプレイや画像認識技術をもとにした「丸文ならではの対応力」に評価を頂いております。

続いて「通信向け」ですが、特にIoT分野での引き合いが伸びております。これには、各種センサやマイコン、通信モジュール、ディスプレイなどを搭載したオリジナル評価ボードの開発に成功したことが寄与しております。

中期経営計画 上期の進捗状況－デバイス事業

ベースビジネス拡大への取り組み

技術サポート力の強化

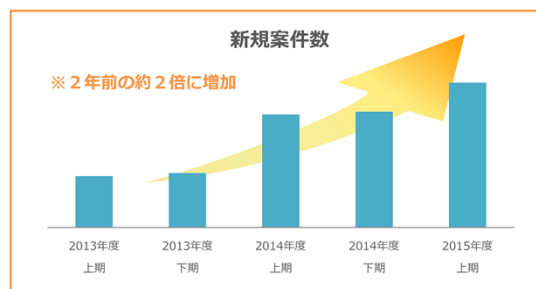
- エンジニアの採用・育成
- デジタル/アナログエンジニアの融合
- 社内教育・技術資料の充実

提案力の強化

- ソリューション提案
- トレーニングや展示会の実施

顧客からの
新規案件数増加

仕入先メーカーより
製品Expertとして表彰



「ベースビジネスの拡大」では、メーカー出身エンジニアの採用やソフトウェアエンジニアの育成、デジタル/アナログエンジニアの融合、そして、社内教育や技術資料の充実を積極的に行ったことが要因として挙げられると考えております。

営業と技術サポートが一体となって、顧客にソリューション提案を行い、また、顧客のもとでのトレーニングや展示会も実施して参りました。

その結果、仕入先メーカーから各社製品のExpertとして表彰されるケースが増加するとともに、顧客が開発に取り組んでいるプロジェクト案件の新規発掘数もご覧のとおり順調にその数が増加しております。

新規案件の発掘が将来的な売上に繋がることから、今後の事業拡大に繋がっていくと期待しております。

中期経営計画 上期の進捗状況－デバイス事業

新規商材の開発推進への取り組み

FINsix社と代理店契約締結・資本参加

- ・ スイッチング技術をベースとした電源システムメーカー
- ・ PC用電源アダプター小型化の革新的な技術を保有

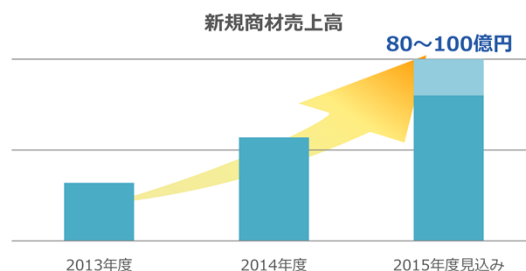
太陽光パネルの品揃え拡充

- ・ 農地向け→住宅用もカバー



FINsix社
超小型ACアダプター

www.marubun.co.jp



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

23

「新規商材の開発推進」に関する取り組みのトピックをご紹介します。

米国のファブレス・ベンチャー企業のFINsix社と代理店契約を締結するとともに、資本参加しました。

同社は高速スイッチング技術をベースとした電源システムのメーカーで、PC用電源アダプターであれば従来の4分の1の大きさに小型化する革新的な技術を保有しております。

この技術は、PCに限らずTV、ゲーム機、OA機器や自動車など電源を使う多くの機器に応用することが可能で、既に多くの電子機器メーカーから引き合いを頂いております。

事業の早期立ち上げをサポートし、スピード感を持って、この製品・技術の上市に努めたいと考えております。

また、太陽光パネル分野で、今までの対象は、「SOLAR 営農」という製品名のとおり、農地向けが中心でしたが、住宅用にも参入し、品揃えにつきましても、国産パネルの取り扱いを開始するなどバリエーションを拡充いたしました。

新規商材の売上高ですが、一昨年度は30億円、昨年度は約60億円でした。今期については80~100億円を見込んでいます。

中期経営計画 上期の進捗状況－システム事業

医用機器	販売エリア拡大 - これまでの北陸3県から東京・甲信越へも進出 独自の付加価値を提供 - 設備・システムの導入支援 - 稼働後の保守・メンテナンス
レーザ機器	マーキング装置向け半導体レーザビジネスの推進 LED光源の積極的な提案 内視鏡向け品揃えを增強  レーザライン社 組込み用半導体レーザ
試験計測機器	スマートフォン関連の設備投資に注力 電子部品向け組立検査装置やウエハー検査装置を拡販  アキム社 電子部品組立装置

www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

24

システム事業では、「医用機器」の売上が拡大するとともに、「レーザ機器」や「試験計測機器」のビジネスが順調に推移しています。

「医用機器」はビジネス地域の拡大が進んでいます。これまでの当社医用機器事業は北陸3県が中心であったのですが、現在は、東京、甲信越、そして、池田医療電機を4月から子会社化したことで新潟県もその範囲に入りました。

販売エリアを拡大するとともに、設備やシステムの導入支援、稼働後の保守・メンテナンスなど独自の付加価値を提供しており、仕入先からも高い評価を頂いております。

「レーザ機器」では半導体レーザやLED光源の販売を推進しました。マーキング装置向けの半導体レーザのビジネスは大変好調に推移し、また国内メーカーが高いシェアを持つ内視鏡向けにLEDの品揃えを增強し、光源がランプからLEDに移行するタイミングを捉えて提案活動を展開しています。

「試験計測機器」では、スマートフォン関連の設備投資に注力し、国内メーカーが競争力を持つ電子部品向けに組立検査装置やウエハー検査装置の拡販に取り組み、足元では大型案件の引合い・受注をいただいております。

2016年3月期 連結業績予想の概要

www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

重点施策に基づく今年度通期の見通しについてご説明します。

2016年3月期 業績予想サマリ

売上高は、2,840億円（+103億円）の見込み

- **デバイス事業** 自動車・プロジェクタ・通信インフラ向け半導体の増加
- **システム事業** 持分法適用会社の子会社化による増加、
医用機器、レーザ機器の増加

営業利益は、45.5億円（前年度並）の見込み

- **売上総利益** 売上増による増加
- **販管費** 子会社増加等による増加

経常利益は、45億円（+6億円）の見込み

- **為替差損** 前期の為替差損（9億円）の減少

当期純利益は、25.5億円（+5.6億円）の見込み

2016年3月期 業績予想

(百万円)	15/3月期		16/3月期		前期比	
	実績	構成比	予想	構成比	増減額	%
売上高	273,683	100.0%	284,000	100.0%	10,317	3.8%
デバイス事業	234,428	85.7%	237,000	83.5%	2,572	1.1%
システム事業	39,254	14.3%	47,000	16.5%	7,746	19.7%
売上総利益	19,146	7.0%	20,000	7.0%	854	4.5%
販売管理費	14,593	5.3%	15,450	5.4%	857	5.9%
営業利益	4,552	1.7%	4,550	1.6%	△ 2	0.0%
営業外収益	751	0.3%	600	0.2%	△ 151	-20.1%
営業外費用	1,418	0.5%	650	0.2%	△ 768	-54.2%
経常利益	3,886	1.4%	4,500	1.6%	614	15.8%
特別利益	7	0.0%	700	0.2%	693	9900%
特別損失	110	0.0%	750	0.3%	640	582%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,990	0.7%	2,550	0.9%	560	28.1%

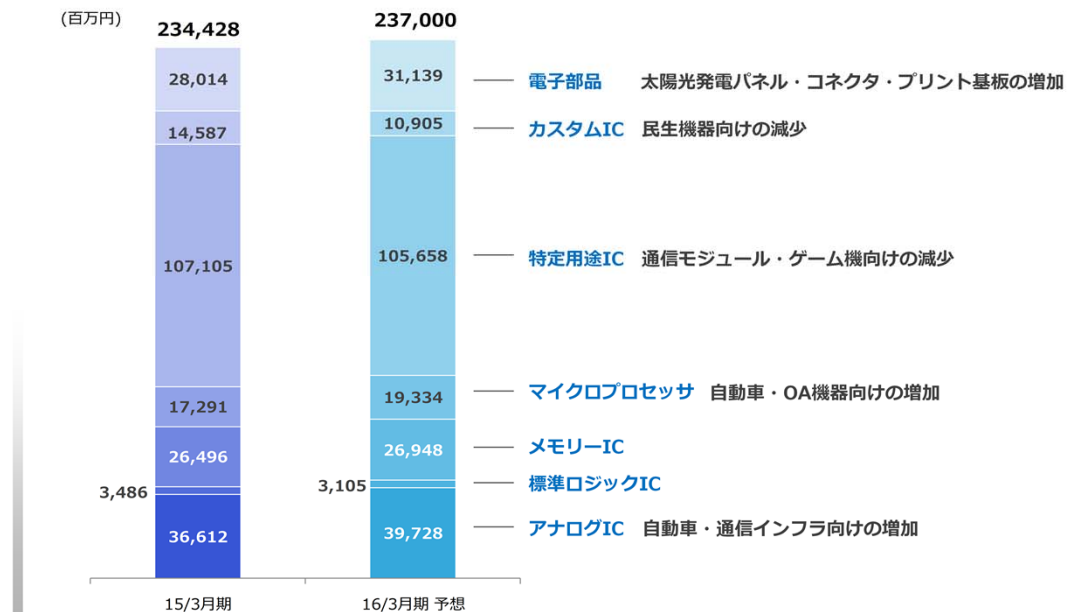
www.marubun.co.jp

売上高は前年度に比べて103億円増の2,840億円の見込みです。

上期は期初計画を上回って着地しましたが、下期は中国の景気減速の影響が見込まれます。

そのため、通期の利益見通しは期初計画を据え置きました。

2016年3月期 デバイス事業品目別売上高予想



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

28

事業セグメント別の売上見通しについてですが、デバイス事業は前年度に比べ25億円増の2,370億円を予想しております。

特定用途ICは、通信モジュール向けを中心に減少を見込み、カスタムICは、民生機器向けでの減少を見込んでおります。

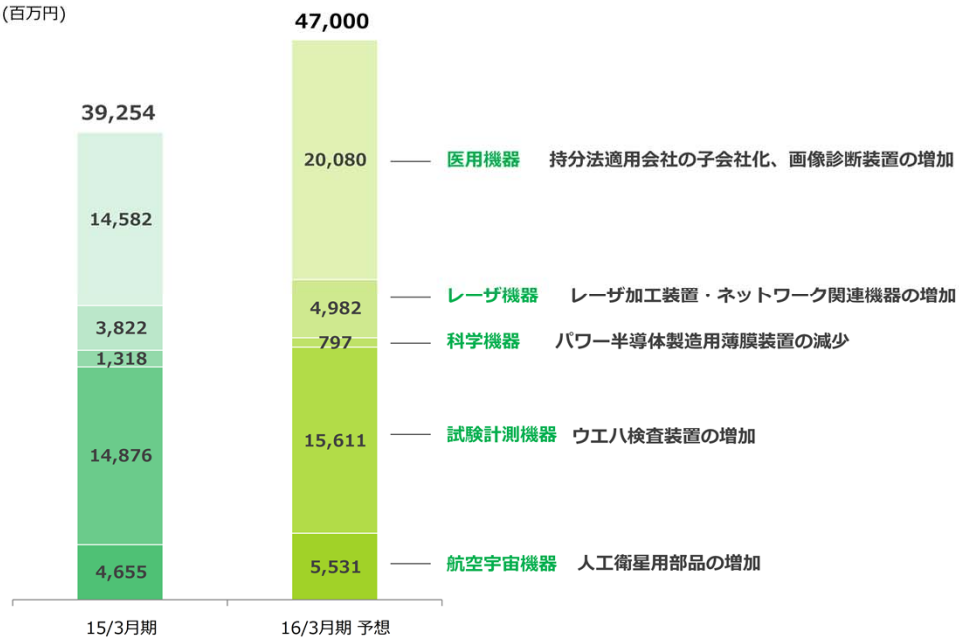
一方で、注力している自動車向けでは、アナログICやマイクロプロセッサが増加する見通しです。

アナログICは、自動車や通信インフラ向けの増加を見込んでおります。

電子部品は、新規ビジネスである太陽光発電パネルやコネクタ・プリント基板などの増加を見込んでおります。

2016年3月期 システム事業品目別売上高予想

(百万円)



www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

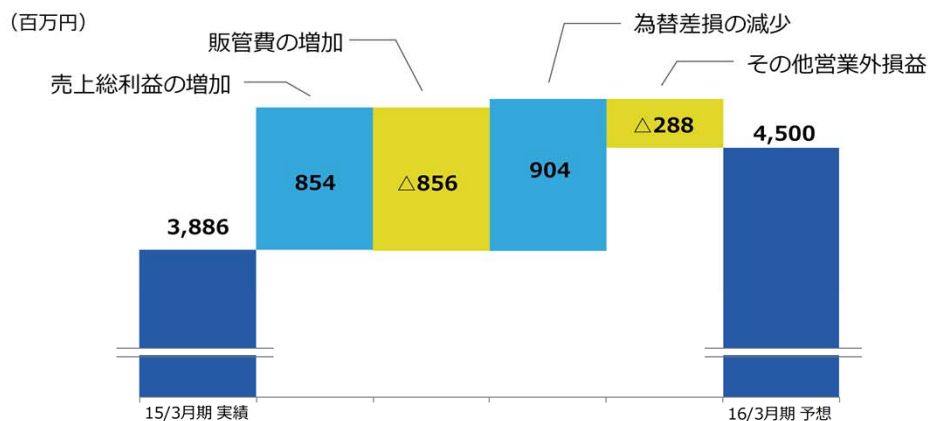
丸文株式会社

29

システム事業は、前年度に比べて77億円増の470億円の売上を見込んでおります。

科学機器は減少を見込んでおりますが、医用機器、レーザ機器、試験計測機器および航空宇宙機器では増加を見込んでおります。

経常利益の増減要因（前期 vs. 予想）



売上総利益	売上増加による増加
15/3月期：191億円	⇒ 16/3月期予想：200億円
販管費	持分法適用会社の子会社化や人件費増などによる増加
15/3月期：145億円	⇒ 16/3月期予想：154億円
営業外損益	為替差損の減少
15/3月期：9億円	⇒ 16/3月期予想：差損解消

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

30

経常利益の増減要因についてご説明します。

売上総利益については、前年度より8億円の増加を見込んでおります。

販管費は、子会社化などによる人件費や営業活動経費の増加により8億円増加する見通しです。

為替差損は9億円減少する見通しです。

以上の結果、6億円増加の45億円の経常利益を予想しています。

株主還元

● 配当方針の見直し

配当性向	連結 25% 以上もしくは 単体 30% 以上 の多い方
	連結 30% 以上

● 配当予想

(円)	2015年3月期	2016年3月期 (予想)
1株当たり年間配当金	20.00	30.00
中間配当	7.00	12.00
期末配当	13.00	18.00



株主の皆様への利益還元についてご説明します。

当社は、今期より配当方針を改め、連結配当性向30%以上目安として配当を決定していくことにいたしました。

今年度は期初の計画通り、中間配当12円、期末配当18円、合わせて年間で30円を予定しております。

今後とも皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

以上で説明を終わります。

ありがとうございました。

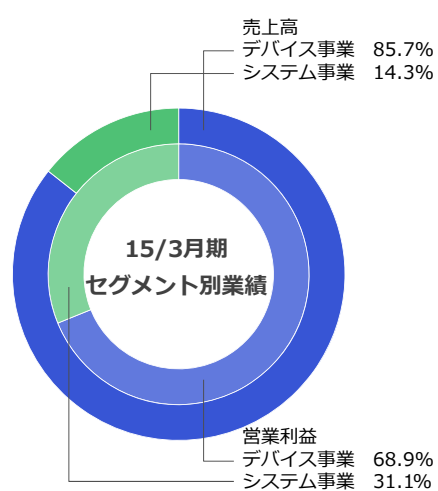
参考情報

www.marubun.co.jp

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

会社概要

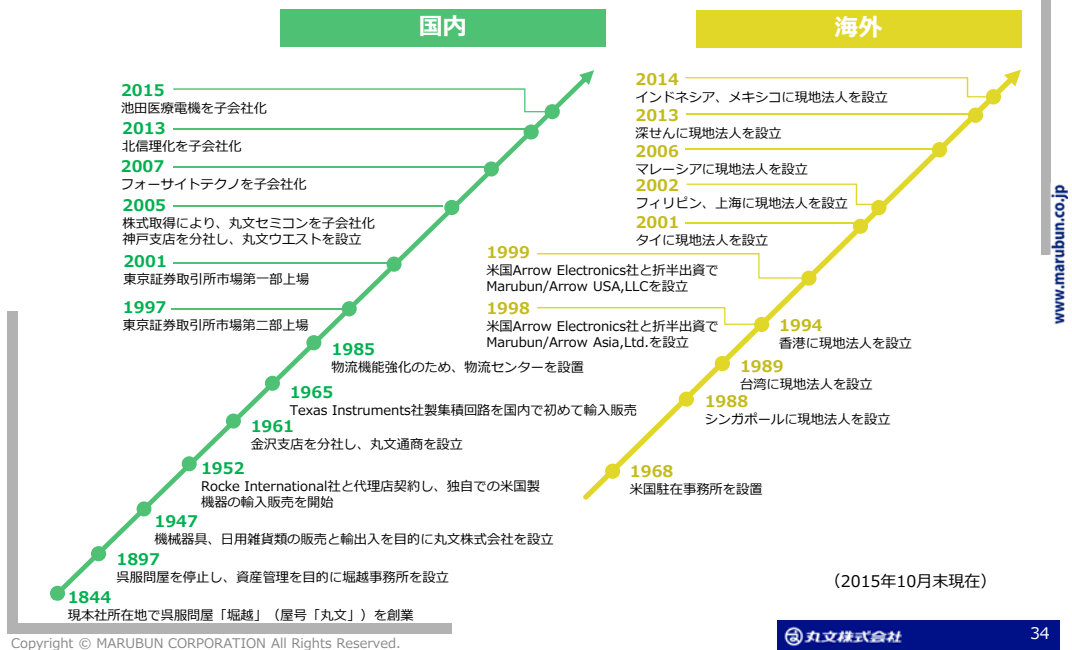
- 設立 1947年7月
- 資本金 62億円
- 事業内容 最先端エレクトロニクス
機器・部品の販売
- 本社所在地 東京都中央区日本橋
大伝馬町8-1
- 連結売上高 2,736億円（2015年3月期）
- 従業員数 1,282人（2015年9月末現在）



www.marubun.co.jp

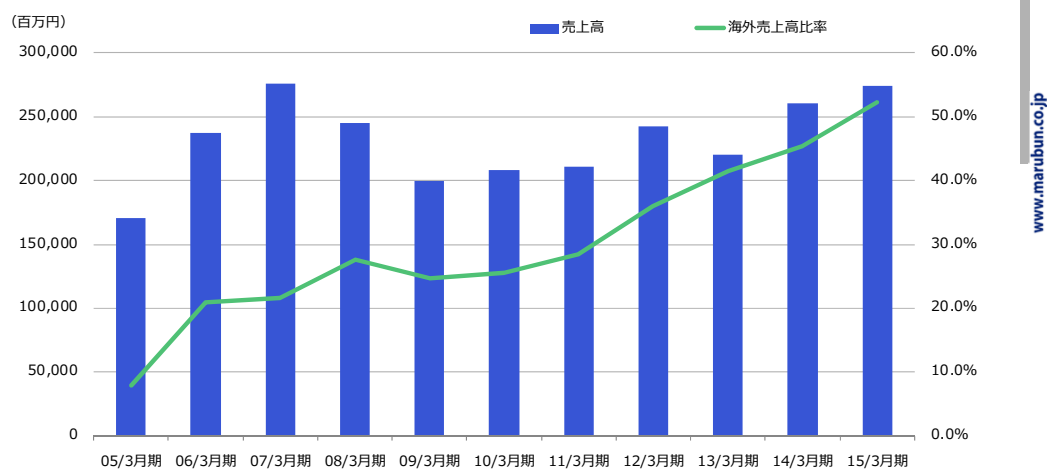
Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

事業の変遷



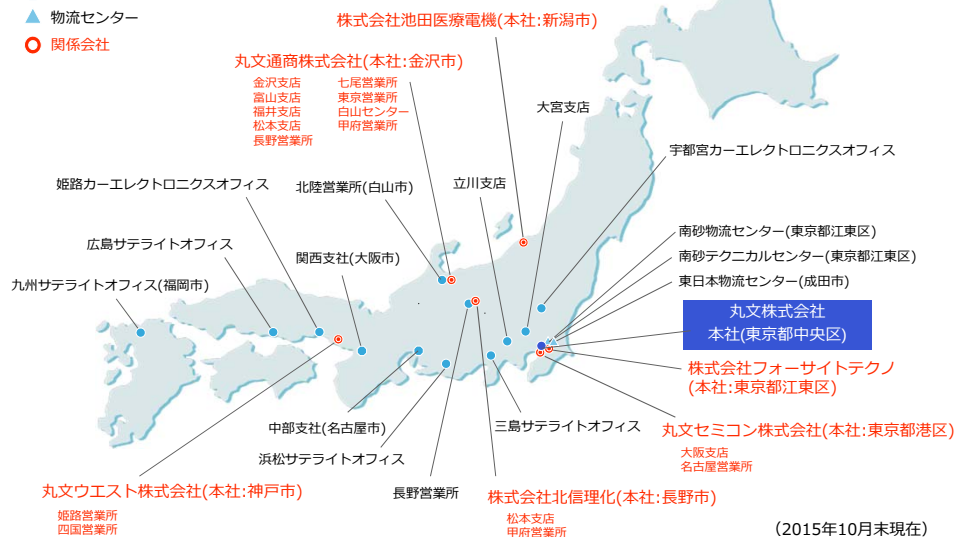
中長期業績トレンド

日系電子機器メーカーへの海外展開サポート推進により海外売上高比率が増加



国内ネットワーク

- 支社、支店、営業所
- ▲ 物流センター
- 関係会社



(2015年10月末現在)

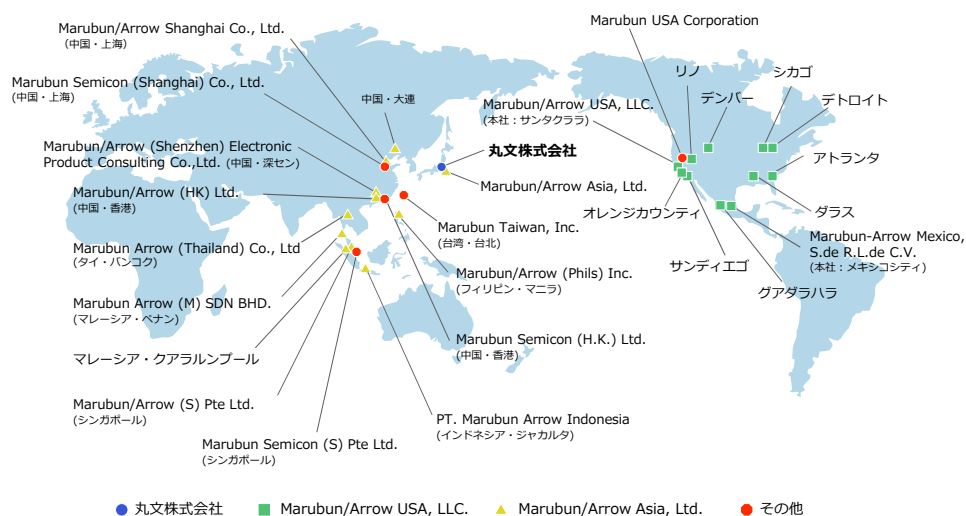
Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

36

www.marubun.co.jp

グローバル・ネットワーク



- 丸文株式会社
- Marubun/Arrow USA, LLC.
- ▲ Marubun/Arrow Asia, Ltd.
- その他

(2015年10月末現在)

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

37

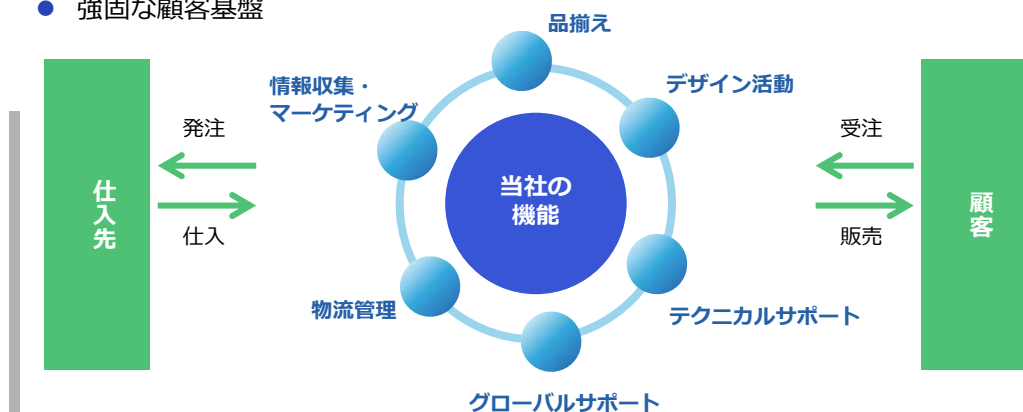
www.marubun.co.jp

デバイス事業：特徴と強み



デバイス事業

- 海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- 米国アロー社(56ヶ国、460拠点)との提携によるグローバルネットワーク
- 高度な技術力をもとにしたソリューション提案力
- 強固な顧客基盤



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

38

デバイス事業：グループ会社概要



デバイス事業

社 名	住 所	設立年月	出費比率	事 業 内 容
丸文セミコン株式会社	東京都港区	2005年3月	100.0%	
Marubun Semicon (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2005年3月	100.0%	サムスン電子製半導体・電子部品の仕入販売
Marubun Semicon (H.K.) Ltd.	Hong Kong, China	2010年1月	100.0%	
Marubun Semicon (S) Pte. Ltd.	Alexandra Road, Singapore	2013年11月	100.0%	
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100.0%	丸文アローUSAの持株会社
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100.0%	台湾製デバイスの仕入販売
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	British Virgin Islands	1998年10月	50.0%	丸文アローシンガポール、丸文アロー香港の持株会社
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Anson Road, Singapore	1988年3月	50.0%	
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50.0%	
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50.0%	
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50.0%	
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50.0%	海外進出した日系企業への半導体・電子部品の仕入販売
Marubun/Arrow (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2002年9月	50.0%	
Marubun/Arrow (Shenzhen) Electronic Product Consulting Co.,Ltd.	Shenzhen, China	2013年6月	50.0%	
PT. Marubun Arrow Indonesia	Jakarta, Indonesia	2014年4月	50.0%	
Marubun/Arrow USA, LLC*	Delaware, U.S.A.	1998年11月	50.0%	
Marubun-Arrow Mexico, S. de R.L. de C.V.*	MexicoCity, MEXICO	2014年9月	50.0%	

* Marubun/Arrow USA、Marubun-Arrow Mexicoは持分法適用関連会社

(2015年10月末現在)

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

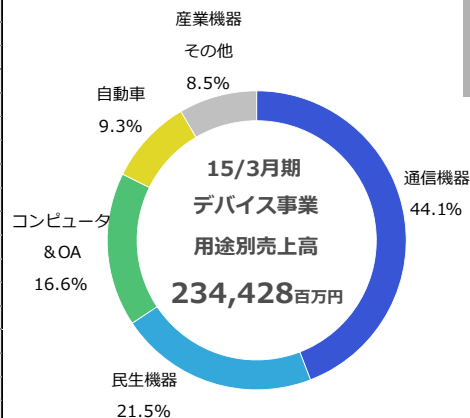
39

デバイス事業：主要取扱い製品（用途別）



デバイス事業

		用 途				
		通信機器	民生機器	コンピュータ & OA	自動車	産業機器
半導体						
アナログIC	アナログ	●	●	●	●	●
	ディスプレイ	●	●		●	●
標準ロジックIC		●	●	●	●	●
メモリーIC	DRAM	●	●	●	●	
	フラッシュ	●	●	●		
マイクロ プロセッサ	MPU、MCU	●	●	●	●	●
	DSP	●	●		●	●
特定用途IC	ASSP	●	●		●	
	ディスプレイ・ドライバ	●	●	●	●	
	DMD	●	●	●	●	●
	LED	●	●	●		
カスタムIC		●	●	●	●	
電子部品						
液晶パネル		●	●	●	●	●
有機EL		●	●			
水晶デバイス		●	●		●	●
コネクタ・スイッチ・プリント基板		●	●			



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

40

www.marubun.co.jp

デバイス事業：主要取扱い製品（サプライヤ別）



デバイス事業

		サプライヤ（アルファベット順）															
		Asahi Kasei Microdevices	APCB（台湾）	Baysand（米国）	Broadcom（米国）	Eltron（台湾）	Freescape（米国）	ISSI（米国）	Maxim（米国）	Molex（米国）	Open Silicon（米国）	Qorvo（米国）	Samsung（韓国）	SanDisk（米国）	Sekio Epson	Texas Instruments （米国）	Unimicon（台湾）
半導体																	
アナログIC	アナログ	●					●		●			●				●	
	ディスプレイ						●										
標準ロジックIC																●	
メモリーIC	DRAM					●		●					●				
	フラッシュ												●	●			
メモリーカード														●			
マイクロ	MPU、MCU						●								●	●	
プロセッサ	DSP	●					●									●	
特定用途IC	ASSP	●			●		●		●			●			●	●	
	ディスプレイ・ドライバ												●		●	●	
	DMD															●	
	LED												●				
カスタムIC		●		●							●				●	●	
電子部品																	
液晶パネル																	
有機EL													●				
水晶デバイス																●	
コネクタ・スイッチ										●							
プリント基板			●														

Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

41

www.marubun.co.jp

システム事業：特徴と強み

- ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート



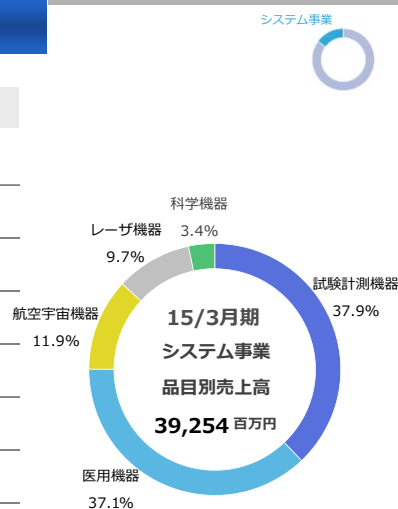
システム事業：グループ会社概要

社 名	本 社	設立年月	出費比率	事 業 内 容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100.0%	医用機器、試験計測機器及び電子部品の仕入販売
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社 北信理化	長野県長野市	1951年11月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社 池田医療電機	新潟県新潟市	1961年8月	100.0%	医用機器などの販売・修理・メンテナンス
株式会社 フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51.0%	機器の据付・保守を含めたエンジニアリングサービス提供

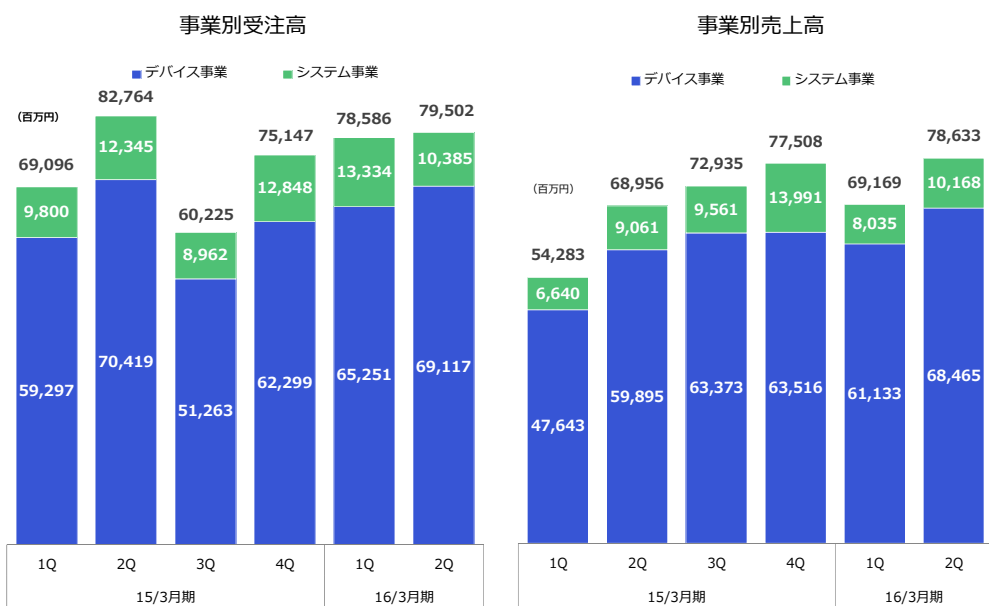
(2015年10月末現在)

システム事業：主要取扱い製品①

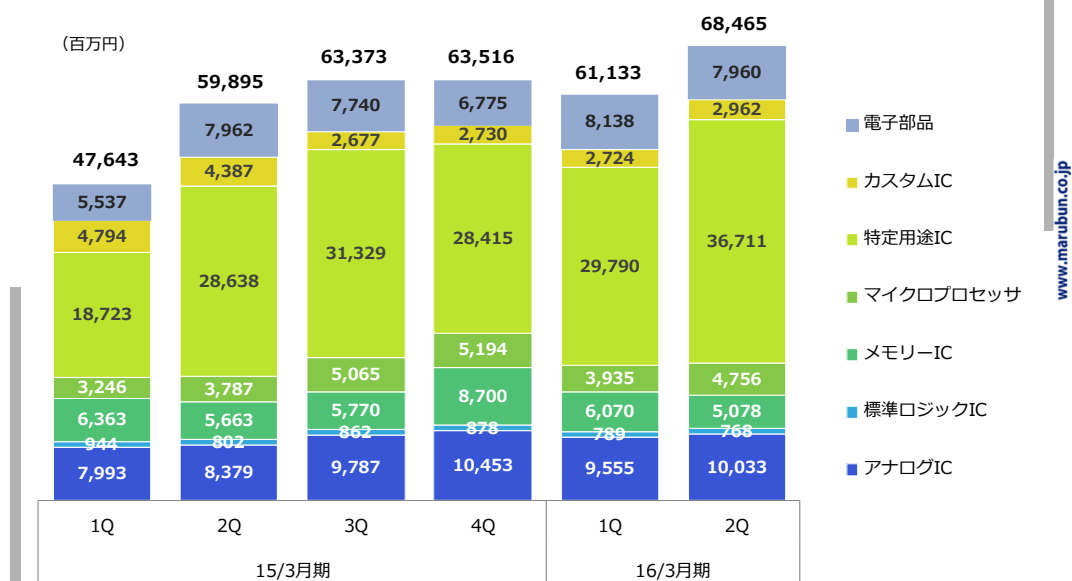
分野	主要取扱商品	主要仕入先
航空宇宙機器	高信頼性部品、計測・センサ	Tele Communication Systems、Plascore、Lavision
	航空関連機器、高周波電子機器	CPI、L3 Communications
試験計測機器	検査装置・試験計測器	アキム、島津製作所、ARTESYN、ADLINK
	ボードコンピュータ	セイコーエプソン、日本アビオニクス
科学機器	製造装置・組立装置	MOCVD装置、MBE装置
科学機器		AIXTRON、Riber
レーザ機器	半導体レーザ・レーザ加工機	nLight、Laserline
	ネットワーク・光学部品	Microsemi、Calnex Solutions、Excelitas Technologies
医用機器	画像診断機器	シーメンスジャパン、島津製作所、コニカミノルタヘルスケア
	人工透析機器	日機装、旭化成メディカル、カネカメディックス



業績四半期推移（事業別受注高・事業別売上高）

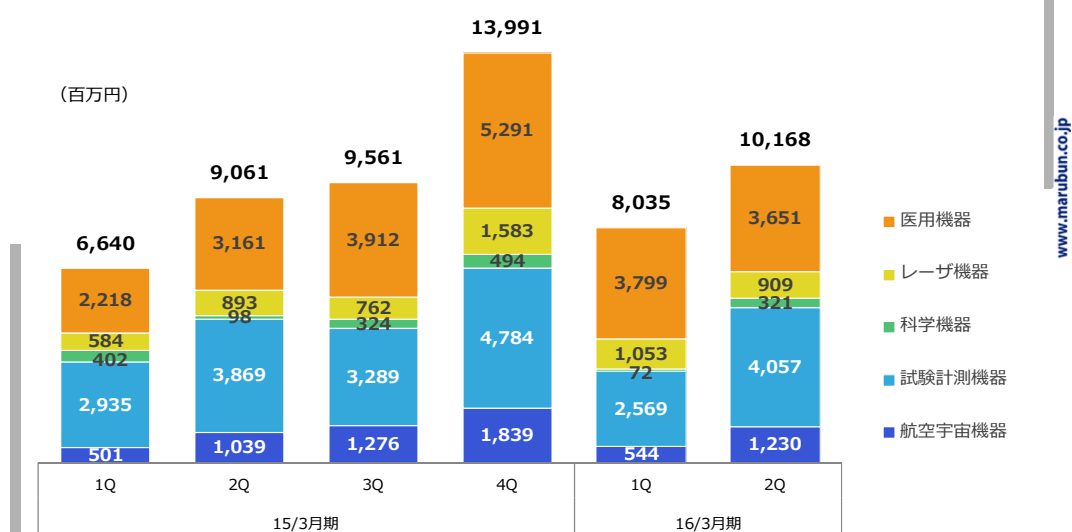


業績四半期推移（デバイス事業：品目別売上高）



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

業績四半期推移（システム事業：品目別売上高）



Copyright © MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

www.marubun.co.jp

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

TEL 03-3639-3010

E-mail ir@marubun.co.jp